



外国語学部「日本語教師養成講座」／外国語  
教育学研究科「日本語教育専門家養成講座」

### ○沿革と概要

関西大学外国語学部・外国語教育学研究科の日本語教員養成課程は、平成 25 (2013) 年に学部で、平成 28 (2016) 年に研究科で開講しました。本学部・研究科の養成課程の特長の一つは、受講生が、日本語教育担当教員による日本語学・日本語教育学関連の授業だけでなく、英語や中国語など他言語が専門の教員の授業科目を履修して単位を取得できる点です。受講生は言語を超えた包括的な視点から日本語教育を学んでいます。また、文学部や国際部と連携して学内で教育実習を行っており、他学部の学生との協働作業を通して、複眼的な視野を養うことが可能です。

### ○受講資格・定員

外国語学部・外国語教育学研究科の学生であれば、専攻するプログラムや領域にかかわらず、誰でも養成講座を受講することができます。養成講座の所定の科目（学部・28単位、研究科・26 単位）を履修して単位を取得すれば、卒業時に修了証が発行されます。学部の教育実習は文学部の学生と一緒に履修し、定員は毎学期 30 名です。研究科の教育実習の定員は毎学期 8 名です。

### ○学部・課程修了要件

外国語学部の学生は、主専攻言語として英語あるいは中国語を学び、2 年次に 1 年間海

外留学をします。留学先は、アメリカ・イギリス・カナダ・オーストラリア・ニュージーランド・中国・台湾・キルギス・フランス・ドイツなどです。また、3 年次編転入による日本語主専攻があり、外国人留学生が若干名学んでいます。学部生は、3 年次より「日本語教師養成講座」の主要な科目を履修します。必修科目には、「言語教育学（日本語）」「日本語教育演習」「言語分析研究（日本語）」「地域協力論」「日本語教育実習」があります。毎年 20～30 名が養成講座を修了しています。



授業風景：学部生によるグループ活動

外国語教育学研究科前期課程には、外国語教育学領域・異文化コミュニケーション学領域・通訳翻訳学領域の 3 つの領域があり、日本語を含む 5 つの言語が専攻できます。将来、日本語教育に関わる職に就く可能性を視野に入れ、日本語教育の専門知識を学び、実践に必要なスキルを身につけることを希望する大学院生のための講座として位置づけられています。日本語教育専門家養成講座を受講し、所定の単位を取得して修了する院生は毎年 10 名程度います。専攻言語は日本語のほか、英語・中国語・朝鮮語と多様です。また、日本人学生と留学生が混在しているのが特徴です。必修科目は、「外国語教授方法論（日本語）」

「外国語分析論（日本語）」「外国語教育論（文法）（日本語）」「外国語教育教材論（日本語）」「異文化コミュニケーション論」「外国語学習者論」「日本語教育特別実習」の 7 科目で、そのうち「日本語教育特別実習」において教育実習を行っています。

### ○学部養成講座の必修科目授業の一例

学部の日本語教師養成講座の必修科目の一つである「日本語教育演習」は、具体的な日本語の授業実践のあり方を考えることが目的です。教材分析や授業分析、授業設計や教案作成を通して、日本語教師としての専門性を身につけていく授業です。また、学期を通して海外の日本語学習者との交流を積極的に行ったり、ゲストスピーカーとして現職の日本語教師に講演してもらったりしています。



授業風景：ゲストスピーカーの講演

### ○教壇実習

学部・研究科ともに、実践研修（教壇実習）は本学の留学生別科で行っています。研究科の大学院生は、台湾・淡江大学での海外日本語教育実習も任意で参加することができます。

### ○学習支援体制

留学生別科では、本学の学部・大学院や日本国内の大学・大学院への進学を希望する外

国人留学生に対し、日本語などの授業を開講しています。特に留学生の会話能力を高めるために、日本語の授業中、会話のロールプレイやディスカッション、プロジェクト活動に留学生と共に参加し、留学生の日本語学習を支援する日本語会話パートナーの制度があります。学部・研究科の養成講座の履修生は、留学生対象の日本語の授業に参加し、さらに異文化理解を深める機会が得られます。



関西大学留学生別科

### ○課程修了と進路

学部生の特徴として、外国語学習や異文化理解に対する関心の高さが挙げられます。日本語教師養成講座の修了生のうち、国内外の日本語教育機関で日本語教師としての職に就く学生が毎年若干名います。研究科修了者も、毎年数名が日本語教育に従事しています。

### ○関西大学の養成課程について知るには

関西大学日本語教師養成講座・日本語教育専門家養成講座については、学部・研究科のウェブサイトで紹介されています。サイト内には、養成講座の特色や修了生の状況などが記載されています。ぜひご覧ください。

<https://www.kansai-u.ac.jp/fl/>

### ■問い合わせ先

嶋津 百代 教授

shimazu@kansai-u.ac.jp